

教科 科目	国語 国語3	学 年	3年	単 位	5単位	担 当	米谷 悦子・恒住 典子
【科目の概要】 国語としての日本語を正しく身に付け、理解し、その運用能力を高めることを目標としています。具体的には、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関心を持ち、意欲的に取り組み、自分自身で考え、論述・発言できる力を身につけられるように学習します。							
【育成をめざす学力】 ① 主体的、継続的に学習することによって、自らを向上させようとする自己学習力 ② 漢字・語句・文法等の、文章読解の基礎的な力をつけて、学習活動や生活の場で活用する力 ③ 多様な文章（説明文、小説、詩歌、古典等）を要約し、内容を読解する力 ④ 社会や文化、自分の生き方について考え、理解を深めて、自分の意見を築き、表現する力 ⑤ 出題形式に応じて、適切な解答をつくる力							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字、文法等の基礎的知識を習得し、活用できる。 ・ 古典の文章全体の内容を理解できる。 ・ 説明文の要約作成、読解ができる。 ・ 小説や詩歌に描かれた心情等を読み取り、読解ができる。 ・ 様々な文章を題材に、自らの意見を構築、表現できる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	詩「水のようなひと」 評論「間の文化」						
5月	小説「握手」						
6月	俳句「俳句の世界」「俳句十句」						
7月	小説「花や咲く咲く」 小論文「論理の展開を工夫して、説得力を持たせる」 書写						
8月	小論文演習						
9月	論説「フロン規制の物語〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで」						
10月	古文「和歌の世界」 論説「情報化社会を生きる メディア・リテラシー」						
11月	古文「奥の細道」 詩「初恋」						
12月	論説「『文殊の知恵』の時代」 漢文「論語」						
1月	小説「故郷」 文法のまとめ						
2月	小説「坊ちゃん」 詩「誓い」						
3月	読書の広場 書写						

教科 科目	社会3（公民分野）	学 年	3年	単 位	4. 5単位	担 当	瀧澤 優子 古賀 彩香
<p>【科目の概要】 人間はより幸せな暮らしを求めて「社会」をつくり、「社会」で生きてきた。「社会科」とは幸せに生きるために人々が工夫をこらし、様々な課題に立ち向かっていきながらつくっていった「社会」と「社会」で生きている「人間」を学ぶ教科である。「社会と人間」を見る範囲を自分の周囲から日本全国へ、世界全体に広げるために「地理的分野」を学び、「社会と人間」の歩みを知るために「歴史的分野」を学んできた。3学年はその総決算として、今まで学んだことを活用しながら今現在の「社会」のしくみとその目的を学び、現代の「社会」が抱える課題を知り、改善の方法を探り、より幸せな「社会」をつくるために何をすべきかを考えていく。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史および現代の日本の政治・経済や国際社会を理解するために必要な基本用語を習得する力 ・日本国憲法から日本の政治のしくみと意義を理解する力 ・資料から現代日本の政治や経済、国際社会のようすを読み取る力 ・学習内容から現代日本の政治や経済、国際社会の課題を発見し、説明する力 ・自己の価値観から「あるべき社会の姿」を考え、社会の課題を解決する策を提示する力 ・学習活動を通じて社会科学習の意義を理解し、現代社会への興味・関心を喚起する力 ・学習活動を通じて自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・現代社会の特徴を把握するために基本用語を整理・説明できる（社A②・③） ・提示された資料から現代社会の特徴を読み取ることができる（社A④） ・現代社会の社会観や人間観について、自己の価値観に照らし合わせて評価・説明できる（社B③） ・現代の人間や社会の問題点を独自の視点から設定・問題点の方策を考えることができる（社C①・②・⑤） ・自己の社会改善策の立案・提示の過程を通じて学習意義を発見、人間・社会への興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月 5月 6月 7月 8月	地理：第3章 日本の諸地域 5節 関東地方 6節 東北地方 7節 北海道地方 歴史：第6章 二度の世界大戦と日本 1、第一次世界大戦と日本 2、世界恐慌と日本の中国侵略 3、第二次世界大戦と日本 歴史：第7章 現代の日本と世界 1、日本の民主化と高度成長 2、冷戦と日本 3、冷戦後の世界 公民：第1章 私たちの生活と現代社会 1、現代社会とわたしたちの生活 2、わたしたちの生活と文化 3、現代社会の見方や考え方	公民：第4章 わたしたちの暮らしと経済 1、暮らしと経済 2、生産と活動 3、価格の働きと金融 4、国民生活と福祉					
9月 10月 11月 12月	公民：第2章 人間の尊重と日本国憲法 1、人権と日本国憲法 2、人権と共生社会 3、これからの人権保障 公民：第3章 現代の民主政治と社会 1、現代の民主政治 2、国の政治のしくみ 3、地方の政治と自治						
1月	中学社会科学習の総復習						
2月 3月	公民：第5章 地球社会と私たち 1、国際社会と私たち 2、国際問題と私たち						

教科 科目	数学3	学 年	3年	単 位	4単位 +演習2	担 当	矢野美保・久間一輝 遠藤 康志
【科目の概要】 平方根について理解し、数の概念についての理解を深める。また2次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。関数 $y = ax^2$ について理解し、関数関係を見出し、考察し表現する。図形の相似、三平方の定理について理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる。							
【育成をめざす学力】 ① 学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力 (F, G) ② いろいろな問題の解決に向けて、根拠を明らかにし、筋道を立て、体系的に考えることのできる力 (C, D) ③ いろいろな問題の解決に向けて、言葉や数、式、図、表、グラフなどの関連を理解し、活用できる力 (A, B) ④ 学習活動を通して、自分の考えを説明、表現できる力。(E) ⑤ 数学を学ぶ意欲を高め数学的な見方や考え方のよさを実感し、それらを通して考え判断できる力 (D)							
【評価基準・評価項目】 ① 正の数の平方根を理解し、それを用いることができる。 ② 式の展開や因数分解ができ、目的に応じて式が変形できる。 ③ 2次方程式を理解し、それを用いて問題解決ができる。 ④ 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応から $y = ax^2$ について理解し、関数関係見出し、表現し考察できる。 ⑤ 相似条件を基にして図形の性質を確かめ、論理的に考察し表現できる。 ⑥ 三平方の定理を理解し、それを用いることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	既習事項の復習 (1章式の計算 いろいろな因数分解まで) 1章 式の計算 3節式の計算の利用 4節素因数分解						【ベネッセ模試】
5月	2章 平方根	1節①平方根、②平方根の値 2節①根号を含む式の乗法・除法 ②加法・減法 ③いろいろな計算 【1学期中間考査】					
6月	3章 2次方程式	1節①2次方程式とその解 ②2次方程式の解き方 (因数分解・平方根・解の公式) 2節①2次方程式を利用する問題 演習問題					
	4章 関数 $y = ax^2$	1節①2乗に比例する関数 ②関数 $y = ax^2$ のグラフ 【1学期期末考査】					
7月	4章 関数 $y = ax^2$	③関数 $y = ax^2$ の値の変化					
8月		2節①関数 $y = ax^2$ の利用 ②いろいろな関数					
9月	5章 相似	演習問題 【実力考査】 1節相似な図形①相似な図形の性質 ②三角形の相似条件 ③縮図の利用 2節平行線と線分の比①三角形と比 ②中点連結定理 ③平行線と線分の比					
10月		3節面積の比、体積の比①三角形の面積と線分の比 ②相似な図形の面積の比 ③相似な立体の表面積の比、体積の比 演習問題					
	6章 円	1節円①円周角の定理 ②円周角の定理の逆 ③円の性質の利用 【2学期中間考査】					
11月		接弦、内接する四角形、方べきの定理 7章 三平方の定理 1節①三平方の定理 ②三平方の定理の逆					
12月		2節①平面図形への利用 ②空間図形への利用 3年間の実力問題					
	8章 標本調査	1節①母集団と標本 ②標本調査の活用					
1月		3年間の実力問題 【実力考査】					
2・3月	数学I (式の計算)	【学年末考査】					

教科 科目	理科3	学 年	3年	単 位	5単位	担 当	田中 宏樹 廣田 裕枝
<p>【科目の概要】</p> <p>「運動とエネルギー」：物体の運動やエネルギーに関する観察、実験を通して、物体の運動の規則性やエネルギーの基礎について理解するとともに、日常生活や社会と関連づけて運動とエネルギーの初歩的な見方や考え方を養います。</p> <p>「生命の連続性」：身近な生物についての観察、実験を通して、生物の成長とふえ方、遺伝現象について理解するとともに、生命の連続性について認識を深めます。</p> <p>「自然界のつり合い」：土の中の生物のはたらきを理解するとともに、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて認識を深めます。</p> <p>「化学変化とイオン」：化学変化についての観察、実験を通して、水溶液の電気伝導性や中和反応について理解するとともに、これらの事象・現象をイオンのモデルと関連づけてみる見方や考え方を養います。</p> <p>「地球と宇宙」：身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察するとともに、太陽や惑星の特徴および月の運動と見え方を理解し、太陽系や恒星など宇宙についての認識を深めます。</p> <p>「地球の明るい未来のために」自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し、判断する態度を養います。エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し判断する態度を養います。</p> <p>12月から中学3年間の総復習をし、2月からは高校化学の基礎となる部分を学習します。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。観察・実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力。知識と与えられた条件から予想する力根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。文字式を活用することができる力。資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力。</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>身近な事物・現象の規則性に興味・関心をもっている。自然や生命を尊重する姿勢をもっている。実験や観察を通して、自然の事物・現象を探究する姿勢をもっている。身近な事物・現象に関する知識を身につけ、日常生活との関連を見いだすことができる。モデルや図などを活用して、基本的な概念の理解を深めることができる。科学的な見方や考え方で理科に対する知識を深め、日常生活や自然とのかかわりをより深く理解することができる。観察・実験に必要な器具を操作することができる。観察・実験の結果をスケッチや文章で的確に記録することができる。実験条件の統一や対照実験など、自然の事物・現象を科学的に探究する基本的な方法を身につけている。定量的な測定をすることができる。安全に十分配慮して実験をおこなうことができる。観察・実験の過程、結果および考察を報告書にまとめることができる。身近な事物を分類して共通性や多様性を見出すことができる。観察・実験の結果を比較し、規則性を見出すことができる。モデル化、グラフ化などの方法を用いて、身近な事物や現象を科学的に考えることができる。数学的な手法や表記法を用いて諸現象を論理的に考えることができる。図や表を、文章での記述と対比して読み取ることができる。モデル化して現象を説明したり、グラフ化したものから規則性を読み取ったりすることができる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	化学変化と電池	酸・アルカリとイオン					3年間の総復習
5月	酸・アルカリとイオン	力のはたらき	物体の運動				3年間の総復習
6月	物体の運動	仕事とエネルギー	生物の成長とふえ方				3年間の総復習
7月	生物の成長とふえ方	遺伝の規則性と遺伝子	自然界どうしのつながり				3年間の総復習
8月	自然界を循環する物質						3年間の総復習
9月	天体の1日の動き	天体の1年の動き					3年間の総復習
10月	月と惑星の運動	太陽系と銀河系					3年間の総復習
11月	地球の明るい未来のために						3年間の総復習
12月	3年間の総復習						
1月	3年間の総復習						
2月	高校化学の基礎（これより4年次の内容）						
3月	高校化学の基礎						

教科 科目	音楽3	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	佐野智江
【科目の概要】 週1時間の授業を通して、より深い内容の音楽学習を行います。鍵盤楽器やリコーダーなど、身近な楽器の歴史について知識を深める機会を持ちます。また音楽史の授業では、1年次から学習してきた各時代の鑑賞曲を、歴史的な観点から系統だてながら整理していきます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> これまで学習した知識をふまえ、音楽というものを深く考えようとする力。 音楽史を通して、各時代の音楽の特徴的な響きを感じ取る力。 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に授業に参加することが出来る。 ・身近な楽器への興味・関心を持つことが出来る。 周囲の響きに調和させて表現活動が出来る。 ・各時代の音楽の特徴を理解し、感じ取る事が出来る。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	讃美歌コンクールに向けて						
5月	讃美歌コンクールに向けて						
6月	歌詞の美しさを味わいながら歌唱しよう 「花」 実技テスト（歌唱）						
7月	アルトリコーダー復習 リズムゲーム 1学期のまとめ						
8月	旋律の美しさを感じとろう 「花の街」						
9月	曲の背景を知って名曲を味わおう 「エチュード ハ短調（革命）」 鍵盤楽器について						
10月	曲想を感じとりながら表現豊かに歌おう 「帰れソレントへ」 クリスマス礼拝準備（「ハレルヤコーラス練習」）						
11月	クリスマス礼拝準備（「ハレルヤコーラス練習」） 実技テスト（歌唱）						
12月	クリスマスの讃美歌に親しもう クリスマス礼拝準備（「ハレルヤコーラス練習」） アルトリコーダーの演奏を楽しもう（クリスマスソング） 2学期のまとめ						
1月	音楽史について理解を深めよう 作曲者の思いを感じとろう 交響詩「ブルタバ（モルダウ）」						
2月	実技テスト（アルトリコーダー） 学年末考査						
3月	情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おう 「早春賦」 中学校3年間のまとめ						

教科 科目	美術3	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	竹富 栄治
【科目の概要】 さまざまな作品から視覚表現の可能性を学び、個性的な表現方法を考案し制作します。また、鑑賞以外の目的・用途のある生活の中に生きる美術のあり方を、制作を通して学びます。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然物・人工物に目を向けその価値を見出し、その背景を想像していこうとする力 ・ 民族・地域・時代による美的価値の違いに興味関心を持ち理解する力 ・ 表現することに価値を置き有効な表現手段を探り、表現する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の考えや意識を視覚的に表現することができる ・ 目的にあった表現様式（方法）を選択することができる ・ 効果的に道具を使用することができる ・ 高い関心を持って、作者の制作意図を探ることができる ・ 時代ごとの美術の特徴を理解し、それぞれの良さを味わうことができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	版画制作—幻想の世界						
5月	想像の世界を描いた作品を鑑賞する						
6月	想像の世界を描く 版画の技術を学ぶ						
7月	版を作る						
8月							
9月	刷る 相互評価						
10月	生活の中に生きるデザインを考える						
11月	服飾 製品						
12月	空間						
1月	伝えたい情報を視覚化する プランニング						
2月	現代の美術を鑑賞する						
3月							

教科 科目	保健体育 保健	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	潮下 竜二
【科目の概要】 個人における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。							
【育成をめざす学力】 ① 健康と環境について理解できるようにする。 ② 傷害の防止について理解を深めることができるようにする。 ③ 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする。							
【評価基準・評価項目】 ・ 個人及び、集団における健康、安全について理解できる。 ・ 健康に対する正しい理解のもと、意思決定や行動の選択ができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	①健康と環境 ・オリエンテーション 1. 環境の変化には体はどう対処するか						
5月	2. 快適な環境の条件 3. 部屋の空気をきれいに 4. 水と私たちの生活						
6月	5. し尿・生活排水の処理 6. ごみの処理 7. 環境汚染と保全 ※消防署による救急処置の講習を実施						
7月	1学期期末考査（評価） 救急救命講習						
8月							
9月	②障害の防止 1. 傷害の原因と防止 2. 交通事故の現状と原因 3. 交通事故の防止 4. 自然災害に備えて						
10月	③健康な生活と疾病の予防 1. 健康の成り立ち 2. 食生活と健康						
11月	3. 運動と健康 4. 休養と健康 5. 生活償還とその予防 2学期期末考査（評価）						
12月	6. 喫煙と健康 7. 飲酒と健康 8. 薬物乱用と健康						
1月	10. 感染症とその予防 11. 性感染症の予防						
2月	※エイズ教育 12. とともに健康に生きる社会						
3月	3学期期末考査（評価）						

教科 科目	技術・家庭3	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	松本 智恵
<p>【科目の概要】</p> <p>技術・家庭科では、よりよい生活をしていくために、生活に必要な知識や技術を理解し、実際の生活の中でいろいろな課題を解決する方法を学びます。生活するためには、知っているだけでなく、実際に手や体を動かして体験することが必要です。そのために実習を行い、その過程で生活を工夫し、創造する能力やものをつくる技術を習得します。また、生活の基盤である家庭の役割や、家族や周囲の人々の支え合いの大切さについて学び、周囲の人々との豊かなかかわり方を工夫したり、自分のくらしと環境のかかわりについて考えたりして、実践する力を養います。これらの学習を通して生活の自立と共生のための基礎的な考え方や知識・技術を身につけ、生活を工夫し、創造するのが教科の目的です。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集・活用する力 ・課題に対して様々な角度から考える力 ・自分の考えをまとめる力 ・生活をよりよいものに改善していこうとする意欲や創意工夫する力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住生活、消費生活、情報についての基本的知識・技術を習得できている。 ・安全に配慮し、グループのメンバーと協力して実習を行うことができる。 ・生活の創意工夫をすることができる。 ・学習内容に関するスクラップブックを作成し、その内容を要約して発表することができる。 ・必要な情報を収集し、自分の考えをまとめて発表することができる。 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月～ 9月	<p>「わたしたちの住生活」</p> <p>1 住生活と自立</p> <p>(1)住まいの役割とは何だろう (2)家族と住まいのかかわりを考えよう</p> <p>(3)安全に住むためにはどうしたらよいだろう (4)健康で安全な室内空間を考えよう</p>						
10月～ 12月	<p>「情報」</p> <p>1 コンピュータと情報通信ネットワークの活用</p> <p>(1)コンピュータの仕組みを知ろう</p> <p>(2)情報をコンピュータに取り込もう</p> <p>(3)情報通信ネットワークの仕組みを知ろう</p> <p>(4)情報モラルを身に付けて情報を安全に利用しよう</p> <p>2 情報分野テーマ学習</p>						
1月～ 3月	<p>「わたしたちの消費生活と環境」</p> <p>1 わたしたちの消費生活</p> <p>(1)消費者としての自覚を持とう (2)商品選択と購入について考えよう</p> <p>(3)消費者の権利と責任を知ろう (4)消費者トラブルを解決する方法を知ろう</p> <p>2 環境に配慮した消費生活</p> <p>(1)生活と環境のかかわりについて考えよう</p>						

教科 科目	英語3	学 年	3年	単 位	6.5単位	担 当	松下範枝・井上真理子 宇高かれん・加瀬由佳 天野ムチャレジス
【科目の概要】 世界中に幾つとなく存在する言語、それら全てを習得することは不可能ですが、世界公用語といわれる英語を習得すると、世界中の人と話ができます。英語を通して他国の文化・社会・生活に興味を持ち、自分たちの視野を広げましょう。この科目は全6単位のうち、1.5単位をティームティーチングで行い、より多くの情報量の英語を聞き、適切な対応ができる力と自分の考えを英語で表現する力を養っていきます。5単位は教科書、問題集を活用し、中学校英語の集大成をしていきます。							
【育成をめざす学力】 Reading 速くそして正確に英文の内容を読み取る力 Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力 Speaking / Writing 身近な話題について自ら考え、積極的に英語で表現する力							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ Reading : 高校入試長文程度の英文を読んで、理解することができる。 Chunk ごとに正しく切って読むことができる。 ・ Listening : 日常的な話題についての英語を聞いて、大意を把握することができる。 ネイティブの先生の指示を正確に理解することができる。 ・ Speaking : 日常的な話題について、ネイティブスピーカーと対話できる。(英検3級レベル)。 自分自身や身近な話題について、1分間のスピーチをすることができる。 日本の文化・習慣について、簡単な英語で説明することができる。 ・ Writing : 身近な話題について80語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	オリエンテーション, Program1 受け身, 現在完了形 (継続・経験・完了・結果)						
5月	Program 2,3 It+ be 動詞+〜(+for-)+to 不定詞, It+ be 動詞+too ~+to 不定詞 S+V (ask, tell など)+O (人)+ to 不定詞						
6月	Program 3,4 S+V (call, make など)+O (人)+ C(形容詞・名詞), 間接疑問文						
7月	Program 5 現在分詞・過去分詞の後置修飾						
8月	Program 6 関係代名詞 (主格)						
9月	Program 6,7 関係代名詞 (目的格)						
10月	Program 8,9 関係詞 (主格・目的格・省略) 連語表現						
11月	Program 10 Review Reading, Extensive Reading 連語表現						
12月	英文読解&文法演習						
1月	英文読解&文法演習						
2月	英文読解&文法演習						
3月	英文読解&文法演習						

教科 科目	聖書	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	塩屋 優子
【科目の概要】 1年次からの継続で、「キリストの宣教活動と教会」について新約聖書から学ぶ。新約聖書のキリストの教えと十字架と復活、初代教会の学びを通してキリストへ向かう。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 ・新約聖書の福音書を通し、キリストの教えと活動を理解し、自らの生き方につなげる。 ・新約聖書の使徒言行録と手紙を通して、初代教会とキリスト教の広がりについて学び、世界へ目を向ける。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	① キリストの教え ①新しい掟						
5月	②善いサマリヤ人のたとえ ③放蕩息子のたとえ ④迷い出た羊のたとえ						
6月	⑤十人のおとめのたとえ ⑥タラントンのたとえ ② キリストの活動～奇蹟 ①カナの婚礼						
7月	②五千人に食べ物を与える ③ キリストの活動～いやし ①イエスの服に触れる						
8月	②ヤイロの娘						
9月	④ キリストとの出会い ①香油の女 ②ザアカイ						
10月	⑤ 十字架と復活 ①ろばの子 ②神殿 ③最後の晩餐						
11月	④ゲッセマネの祈り ⑤十字架 ⑥埋葬						
12月	⑦復活						
1月	⑥ 初代教会 ①ペンテコステ ②ペトロとヨハネ ③ステファノ						
2月	⑦ パウロの宣教活動						
3月	⑧ パウロの手紙						

教科 科目	インテグレーション3	学 年	3年	単 位	1単位	担 当	3学年教師
【科目の概要】 integrationは“統合”を意味し、異なる教科の担当教師が協働で学年目標に沿った授業計画を作成して行う本校独自の設定教科です。3学年では、①進路学習、②語彙力・表現力学習、③修学旅行（語学研修）に向けた準備の活動を通して、学年目標である「自分の考えを表現，行動できる生徒」を目ざして学習をすすめていきます。また、表現するための基礎となる語彙力や文章力を高めるための学習も取り入れていきます。							
【育成をめざす学力】 グループで協力して取り組む力 メディアを活用した情報収集、情報分析、情報整理をする力 調べた内容についてレポート発表をする力 日本や世界への理解を深め、積極的に外国の人と関わる力 コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力 小論文作成をする力							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学級やグループの仲間と協力して活動することができる ・情報を収集し、それを自分の言葉で整理できる。 ・調べたことを作品やレポートを作成することができる ・学習したことを論理的に文章や作品にして発表（プレゼンテーション）することができる ・英語でコミュニケーションができる ・自分の考えや意見を小論文として描くことができる 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	上級学校・学部・学科調べ						
5月	上級学校・学部・学科調べ						
6月	読解力・語彙力向上プログラム						
7月	読解力・語彙力向上プログラム						
8月	企業訪問とレポート作成（ゆめみらいワーク）						
9月	資料分析学習						
10月	資料分析学習をもとにしたディベートまたは意見交換会						
11月	修学旅行事前学習（ジャパンレポート作成）						
12月	クラス編成テスト模擬試験						
1月	クラス編成テスト模擬試験						
2月	修学旅行事前学習						
3月	資料分析学習事後検証 西南イングリッシュデイ セカンドプログラム準備						

